



パレット自動倉庫の新設で物量増加に対応 入出庫エリアを分けて作業を効率化

自動車部品を製造する南京泉峰汽車精密技術股份有限公司様は2018年6月、本社敷地内にパレット自動倉庫を新設、稼働させました。保管能力の増強とともに入出庫の作業効率を大幅に向上させたことで、物量増加の状況下でも納期厳守に対応できる体制を構築しました。

2012年3月設立の南京泉峰汽車精密技術股份有限公司様（本社：中国・南京市）は、エンジンや自動車熱交換器など自動車部品のコアとなる部品を製造、販売しています。主な取引先は、世界的に有名な自動車部品サプライヤーであるヴァレオグループ（フランス）やポッシュグループ（ドイツ）などです。2018年度の売上高は12億元（約185億円／1元＝15.39円）に達し、2019



出荷する製品は、チェンコンベヤで3カ力所ある出庫ステーションに搬送される。



天井空間を最大限に生かした高さ24mの自動倉庫（スタッカークレーン8基、格納数1万2,000パレット）。入庫側にはデュアルタイプの高速搬送台車を備え、処理能力を高めている。

年5月には上海証券取引所に上場しました。

従来同社では、製品を納入先や種類ごとにエリアを決めて固定棚や平置きで保管していたため、保管効率が低い上、生産量が年々増加し保管スペースが限界に達していました。また、出荷前の仮置きや空パレット保管は別の



場所で行う必要がありました。

入庫情報の登録は手入力で、出庫は紙のリストをもとに行うなど、入出庫作業に時間がかかっていました。そのため、出荷予定の製品は前日に出庫して出荷エリアに仮置きし、翌日の出荷に対応する運用でした。そこで同社は、保管能力の向上に加え、入庫から出庫までの一連の作業を効率化するため、2018年6月、本社敷地内にパレット自動倉庫を新設しました。

WMSでリアルタイム管理と保管作業の効率化を実現

新倉庫は、パレット自動倉庫の導入

により従来と同じ面積で保管能力が約4倍の1万2,000パレットとなり、製品以外にも空パレットや原材料、仕掛品などの保管にも活用できるようになりました。倉庫管理システム(WMS)により、在庫情報をリアルタイムで更新できるとともに、出庫ミスがなくなりました。入庫ではパレットのバーコードの自動スキャンで入庫情報登録の正確性が向上しました。

また、パレット自動倉庫は、入庫エリアと出庫エリアを分けることで混雑をなくし庫内動線を整流化。入庫側には高速搬送台車「STV」2台、出庫側にはチェンコンベヤを設置し、入出庫作業

時間を短縮。1日の入出庫能力は、各1,000パレットと大幅に向上するとともに、物量が増加している状況下でも、作業にかかる人員は半減しました。

張林虎副総経理は「弊社のお客さまである自動車業界においては、納期厳守が最低条件です。設備に起因する出荷の遅れは許されないため、自動倉庫構築の経験が豊富で信頼性のあるダイフクを選びました。1日の入出庫能力最大2,000パレットという目標も達成して非常に満足しています」と語ります。



副総経理 張林虎 (Zhang Linhu) 様

ポイント

- ▶ 従来と同じ面積で保管能力を約4倍に
- ▶ 入庫エリアと出庫エリアを分けて庫内動線を整流化
- ▶ 物量増加に対応しつつ、作業員数を半減